

ポスター13

ポスター発表(研究)

日本語指導担当教員のコーディネーターとしての役割

高田 茂子(千葉県市原市立海上小学校)

研究の目的

本研究では、公立小学校で日本語指導を担当する教員の役割を明らかにする。それは、進みゆく学校の国際化⁽¹⁾に対応していくためには、日本語指導を担当する教員のコーディネーターとしての役割が重要だと考えるからである。

研究の価値・意義

本研究は、現職教員である筆者が、千葉県の日本語指導担当者の実態調査や日本語指導先進地域⁽²⁾での日本語指導の視察で得た知見をもとに、『外国人児童生徒受入れの手引き』⁽³⁾の「日本語指導担当教師の4つの役割」を踏まえ、2年間に跨って日本語指導を実践し、課題を提案した研究である。

研究方法

(1)千葉県の日本語指導担当者の実態調査より、日本語指導担当教員の継続性・連続性の課題が明らかになった。(2)日本語指導の先進地域である愛知県豊橋市の視察調査により、学校の国際化に対応した市教育委員会の役割と学校組織の体制作り、日本語指導担当教員の役割が明らかになった。(3)千葉県の公立小学校において、日本語指導担当教員として、学級担任、管理職、養護教諭、外部専門スタッフと連携を図りながら、保護者面談、日本語指導、就学時健康診断等を実践した。これにより、日本語指導担当教員は、子ども達の適応や心の安定に配慮しながら、保護者を含めた幅広い支援を行うと共に、「チーム学校」⁽⁴⁾として次年度に向けた組織をつくるために重要な役割を担っていることがわかった。

結果と考察

学校の国際化に対応していくためには、外国にルーツを持つ子ども達と保護者を組織的に支援していくことが必要であり、特に、日本語指導を担当する教員のコーディネーターとしての役割が重要である。2年間の実践検証により、日本語指導担当教員の役割を、①学校内の教職員、②外部専門スタッフと教職員、③地域日本語指導教室と学校教育を繋げるコーディネーターであると明確化した。さらに、地域におけるコーディネーターの育成に関する課題について提案した。

.....

【引用文献】

- (1) 文部科学省(2017)『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査』
- (2) 文部科学省(2016)『日本語能力が十分でない子供たちへの教育について』
- (3) 文部科学省(2011)『外国人児童生徒受入れの手引き』
- (4) 文部科学省(2015)『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)』